

不登校であった過去は恥ずべきことではないという感覚を身につけることができた。

中学時代不登校になるも、生浜高校三部制の定時制午後部に入学し、三部制の制度をうまく利用しながら勉強し、立正大学に進学した生徒のメッセージを紹介します。



中学1年生の頃、私はスクールカーストの底辺に落ちないように、いじめられないようにと、人に合わせようと努めていましたが、クラスメイトと一緒にいても話をしても楽しいとは感じられず、友達と呼べる関係ではありませんでした。2年生になり、地味な生徒が集まるグループに入ってから学校生活は辛く、徐々に朝起きることが困難になり、遅刻や欠席が増えていきました。3年生になって約1ヶ月後、糸が切れるように不登校になりました。人の目を気にし続ける緊張感溢れる日々で疲れてしまったように思います。

その後青少年サポートセンターに通い、通信制ではない高校に進学したほうがいだろうと考えるようになりましたが、毎日みんなと同じように早く起床して通学し続けられる自信がなかったことや、勉強への不安、また元不登校児が多数在籍しているといった点から、生浜高校の午後部を希望しました。

高校に入学してからも、人間関係や勉強への不安はあり、きっかけさえあれば自分が再び不登校になる可能性も十分あると考えていましたが、近い事情を持った友達や理解ある先生に恵まれた

おかげで、無事に3年間を過ごし、卒業することができました。私が大学への進学をしようと決めたのは3年次になってからのことでした。学力試験ではなく、高校での成績や出席日数等のデータと面接で合否が決定する推薦入試を利用し、4年制の大学へ進学しました。大学では社会学という学問を専攻していますが、中学高校時代の経験が、社会を考えるひとつの視点を与えてくれたように思います。

生浜高校で3年間を過ごす中で、生活習慣を改善できたことや人との繋がりなどを得られたことは貴重であったと思いますが、中でも自分にとって大きかったのは、不登校であった過去は恥ずべきことではないという感覚を身につけることができたことだと考えています。

私は将来の夢や希望を持たずに生浜高校に入学し、そのまま卒業しましたが、結果として自分の将来の選択肢を増やすことはできたのではないかと感じています。高校進学で悩んでいる方には、「とりあえず入学してみる選択肢も悪くない」という考え方があることを知っていただければ幸いです。